

訪問診療における看護記録の改善

～ 一貫性のある看護を継続するために ～



湖東厚生病院 外来

児玉朱美 菅原幸子 吉田舞香

はじめに

住み慣れた地域で
自分らしい生活を
最期まで続けたい

訪問診療



1日の訪問スタッフ

内科医師 1名

外来看護師 1名

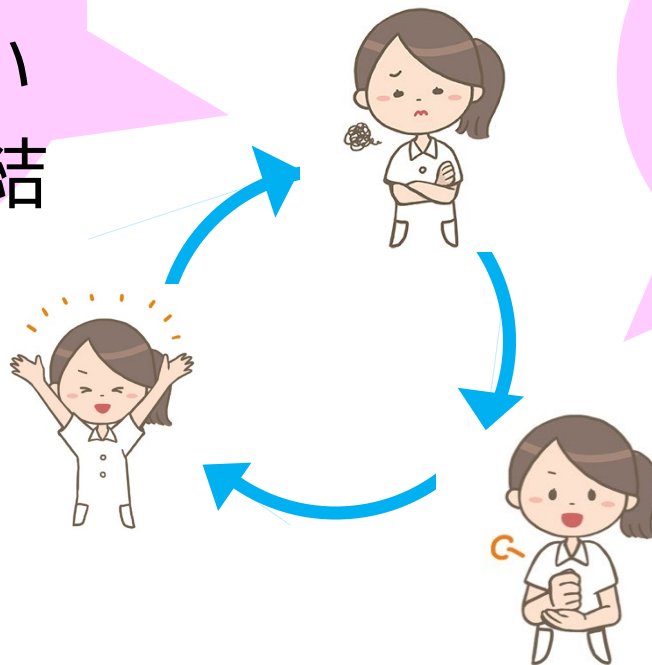
1か月の訪問件数

15~20件

病状説明
患者・家族の
意思確認

不安や気持ちの変化が
記載されていない
情報共有がしにくい
その時の対応で完結

看護記録の改善



一貫性のある
看護を継続

研究目的

訪問診療における看護記録を改善することで、
一貫性のある看護を継続できる

研究方法

1)研究デザイン 質的研究

2)研究対象 A病院

訪問診療に同行する看護師 4名

3)研究期間 令和4年4月～令和4年12月

4)データ収集方法

看護記録についてインタビュー調査

質問内容

1. 患者・家族の不安や気持ちの変化について記録出来ていますか
2. 出来ていない場合は、どんな部分が出来ていませんか
3. 看護記録を改善にあたり
 - ①そのまま残したい点はどこですか
 - ②改善したい点はどこですか
4. 看護記録を改善して
 - ①よかった点はどこですか
 - ②さらに改善が必要な点はどこですか

5)改善方法

1.訪問看護師の看護計画用紙を共有

2.フリーコメントに具体的な内容を提示しルール化

6)分析方法

看護記録の改善前後のインタビュー調査から

文字起こしをし改善内容別に分類し前後比較分析

倫理的配慮

研究対象者に研究目的と方法の説明を行い、プライバシーの保護、不利益からの保護、個人情報に対象者が特定されることはないこと、厳重に保護することを口頭で説明し同意を得た。当院の倫理委員会で承認を受けた。

結果

1. 患者・家族の不安や気持ちの変化について記録出来ていますか

	出来ている	出来ていない
改善前	0	4
改善後	4	0

2. 出来ていない場合は、どんな部分が出来ていませんか

- バイタルサインと処置内容しか記録していない
- 手をさすったりすることで本人の気持ちが安心することを説明したが記録はしていない

結果

3. 看護記録を改善にあたり

①そのまま残したい点

- ・ バイタルサイン記録のテンプレート使用

②改善したい点

- ・ 不安や気持ちの変化が記載されていない
- ・ 情報共有がしにくい
- ・ その時の対応で完結

結果

4. 看護記録を改善して

①良かった点

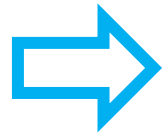
- ・ 必要な情報(計画)を共有
- ・ 看護計画に沿った観察項目を入力
- ・ 看護記録から問題点が分かりやすい
- ・ 次回訪問時に引き継ぎたい事を記入
- ・ 患者に話しかけるようになり、記録するようになった

②さらに改善が必要な点

- ・ 訪問導入時または初回訪問時に、患者・家族の今後の意志を確認し、記載出来れば良い

考察

看護記録の改善



患者・家族の不安や気持ちの変化を記録できる



看護記録

問題点が
把握しやすい

継続したケア
ができる

短時間でも
コミュニケーションが
増えた

看護計画

訪問看護と共有

計画に沿った観察

一貫性のある看護

考察

訪問診療は医師の診察

看護師

医師記録があれば、看護記録は必要ない

医師記録

疾患に焦点を当てた内容

看護記録

看護計画に基づき、家族や生活状況も記録



看護記録の必要性を認識

看護ケアの実践を意識した訪問に変化

結論

1. 訪問看護と看護計画用紙を共有し、
訪問診療時の看護記録を充実することで、
一貫性のある看護の提供につながった
2. 電子カルテ(テンプレート)のフリーコメントを
ルール化することにより、看護記録の必要性を認識し、
看護ケアの実践を意識した訪問に変化した